

別記様式第1号（第5条関係）

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 開催結果の要旨

会 議 名	第6回 当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会		
日 時	平成27年11月11日（水） 午後1時40分～3時30分	場 所	当尾の郷会館2階 「多目的教室」
出 席 者	委 員 員	<input type="checkbox"/> 多田 実（会長）、 <input checked="" type="checkbox"/> 石井 好二郎（副会長） <input checked="" type="checkbox"/> 前田 義之、 <input checked="" type="checkbox"/> 吉田 修史、 <input checked="" type="checkbox"/> 植村 海宥、 <input checked="" type="checkbox"/> 山本 憲市、 <input checked="" type="checkbox"/> 倉山 美幸、 <input checked="" type="checkbox"/> 畑 浩靖、 <input checked="" type="checkbox"/> 西村 正子（代理出席：柳 紀）、 <input checked="" type="checkbox"/> 浦辻 長次、 <input checked="" type="checkbox"/> 福岡 正司、 <input type="checkbox"/> 住山 貢 ※ <input type="checkbox"/> ：欠席者	
	その他出席者		
	事 務 局	武田次長、辻課長、西村係長	
議 題	1. 開会 2. 議事 (1) 協議事項 ・中間案について（資料1・2） 3. その他 4. 閉会		
審 議 結 果 要 旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 多田会長が欠席のため、石井副会長が職務を代理した。 2. 議事 (1) 協議事項 ・中間案について（資料1・2） 事務局より、資料1・2を基に中間案について説明し意見交換を行い、一部文言修正を行ったうえで、中間案としてとりまとめた。 3. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。 4. 閉会		
審 議 経 過 要 旨	1. 開会 審議結果要旨のとおり。 2. 議事 (1) 協議事項 ・中間案について（資料1・2） 審議結果要旨のとおり。 主な意見・質疑等は次のとおり。		

(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)

○11ページの既存施設について加茂プラネタリウム館もある。当尾地域は空気もきれいで星も見えるので、施設として明記しては。

○加茂プラネタリウム館の活用は大事なポイント。市の方で事業仕分けの対象にもなっていたが、地域を見直していくのであれば、今あるものの活用を。

○プランには当尾の歴史が抜けている。昔の栄えていた当尾について、写真を集めてみたり、人も含めて再発掘し、埋もれている当尾の財産を取り上げては。

○施設については維持管理という面が大きいが、これらの意見について市の考えは。

→資料文中の既存施設には、プラネタリウムも含めているので、施設名称を明記していく。また歴史等の掘り起しについては、コンセプトを「魅力再発見 今ある「モノ」を「宝」に」としており、その部分で整理させてほしい。

○歴史ということであれば、加茂町史にいろいろと詳細が掲載されており、ヒントにしてみてもどうか。

○今回のプランは、地域力をとというのがテーマ。地域力のイメージが一致しておくことが必要、地域力の中には自然・産業も含まれるが、一番大きいのは人の力ではないか、地域は自治をベースとして予算が必要ななら市が後押しをしていけばいい。

資料5ページの人口状況を見ても、外部流出が最大の問題では、活性化するためには、高齢化社会の中でも、その人たちに役割が必要であり、そういう視点を本プランに含めてはどうか。小さく始めて、いけそうなものを育んでいく力を地域として求められる。

○高齢化は全国的な話、現状に対して仕方ないという人、何とかしたいという人、地域の中でも様々である。このデータだけで、地域を分析するのは難しい。

○マンパワーが減っていることは明らかである。健康の観点からも、若い街と古い街とで格差が大きい、また原因として負の連鎖が大きいことも分かってきている。中間案の内容を実現していくためには、マンパワーをどこからもってくるのか視点として必要である。

○人手は市内には新しい街もあり、そういった住宅地の人を呼び込んで、

○来訪者のための草刈りを地元で担えないかという話がある。地域外の人にも呼びかけることで、人同士がつながることで、当尾への愛着も生まれるのではないか。

○草刈りについては、地元としても参加できそうか検討している。またその他にも行政側から地方創生関連での協力を求められている。地域のためにつながりたい。

○人がポイントである、コンセプトにも人を入れてみては。

○これからの地域は、人を育てていくことにかかっている。

○地域がどうあるべきか、分かったままで放っておくのでは衰える。

自然と地域の外へ人が流出しているのであれば、どう抑えていくのか、現状を改善していくことができればいいが、外から人を呼び込むのがいいのかどうかは地域性もあるのでは、自治能力に行政の力を加えては。

○自然が豊かで昔は美しい風景であった。来られる方から、いい景色ですねと声を掛けてもらうのが心苦しい。昔の姿には戻せないが、部分的にでも戻せるようできることからやっていくべきである。

○資料5ページの0～9歳児に注目すると、10年で73人から25人に激減している。日本で一般的に言われている少子化の減少とは異なるものである。子育てをしにくい地域になっているのではないか。それであれば、新興住宅地の子どもたちと地元の高齢者の交流といった取組例もある。

○働き盛りも減っている。昔は薪の生産ということもあるが、現代ではバイオマスを呼び込み、循環型で利益を生み出し、再サイクルにもっていく流れが理想的である。

○今回は当尾地域という単位であるが、実際に何かをすとなれば区という単位で考えている。行政にも後押ししてほしい。

○南加茂台の人でも当尾に住みたいと思っている人はいる。空家を使ってサークル活動をしたりもしている。自己主張が強いことが一因かもしれないが、移住のネックは自治会に入ることなど、地域内での役務が分からないことに不安を抱えている。

○児童が減って複式学級となれば、学力低下を招くということを聞いた。ただ島根県や岡山県では山村集落においても先進的に取り組んでいることも

	<p>ある。そういうところにヒントがあるかもしれない。</p> <p>○今回の取組は当尾地域としての話ではないのか、区毎という考え方も持っているのか →計画は当尾地域全体を想定したものであるが、区毎の取組であっても地域全体への波及効果が期待できるものを求めていきたい。</p> <p>○地域は保守的である。当尾の郷会館にしても空き家も同じであるが、縛りをかけて使われないよりも、可能な緩和を図って使える環境が必要。</p> <p>3. その他 審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 閉会</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>傍聴者なし</p>